



10月



「倉敷づくりリーダーは君たちだ」
まち

「非認知能力を育みリーダーを育成しよう」前編

令和六年五月十三日に倉敷国際ホテルで公益社団法人 倉敷青年会議所が実施した、倉敷市家庭教育学級事業 講演会の要旨を二回に分けてお届けします。講師は、岡山大学准教授 中山芳一（なかやま・よしかず）先生です。

● 非認知能力を発信するまで

皆さんこんにちは。僕は、二十代前半ぐらいの時に、学童保育の現場で働いていました。その当時、給料が安くて若い男性は皆無かったですけど、やりがいはずごくありました。僕はそれが一番重要だったので、いろんなことをのびのびやらせてもらってました。その時に、元々学校の先生をやっていた自分が、「これって、子どもたちを教育しようとしているよな」って感じて、その当時よく使われていた言葉が「人間力」だったので、「子どもたちの人間力を育てるんだ」って思っていました。今僕は大学の先生ですけど、元々はその気はなくて、研究者になんたかと思っていました。けど、「学童保育の業界に、研究者がいなすぎるんですよ。その当時、日本全国探してもいない。それで、「自分が学童研究をやって、学童保育

が良くなれば」と思って、現場の後、研究者の道に方向転換して、今は岡山大学で、全一年生の必修のキャリア教育の授業を十年近くやっています。そこで、学生に授業しながら、「これ、学童の時と似てない？」と思うようになって、どうも「非認知能力」という言葉を使うらしいと知って、「自分がやっているのはこれだ！」って、本を書いたり、講演したりして発信しています。今、非認知能力って子育て、教育、保育、ビジネス系などでバズっています。僕は、一番最初の頃に言い始めた一人でもあるので、いろんな芸能人の方とコラボしたり、子どもたちにあちこちで講演したりしています。倉敷もよく来てますね。

● 「頭がいい」「伸びる力」って

その時に、子どもたちに「みんなの中で

一番頭のいい人誰ですか？」って聞くんですよ。すると、大体、特定の子に目線が集まるんですよね。こっちから見ると分かるんですよ。で、その時に、「テストで点数がいい人、順位がいい人、いろんなことを知ってる人、思い浮かべたよね？」って聞くんです。

こういう特徴がある人のことを、仮に「賢い頭」として、この「賢い頭」の人のことを「頭ええよな」って僕らも言っていましたよね。でも、僕は中学生の頃、他の人が「頭がいい」って言っても、テストで点数がいい人のことを「頭がいい」と思ったことないんですよ。それは何かと言うと、こういうのだったあるじゃんって話なんですよね。単に「テストで点数が取れる」じゃなくて、例えば、「諦めずに粘り強く考えるたくましい頭」や、「今あるものをより良くしようっていう前向きな頭」、あと、「人のことを思いやる優しい頭」、そういう頭も、「頭がいい」と認定していいんじゃないの？っていうことなんです。これらを「非認知能力」と呼んでいます。

例えば、粘り強くたくましさ、「自分と向き合う力」。そして、もっとよりよく前向きに、楽しんで積極的にやれる、「自分を高める力」。あと、優しさ、思いやり、これ「他者とつながる力」ですね。こういったものを兼ね備えていることこそ「頭がいい」と言える

んじゃないか。もちろんそこに、「賢い頭が加われれば最強ってことになります。

● 「非認知能力」とは何か

ではここで、非認知能力とは何か、簡単に話します。「認知能力じゃないよ」です。認知能力に「非」がつくから非認知能力です。認知能力は何かというと、「学力」です。数学が得意とか苦手とか言いますが、これって、何をもって得意だ苦手だって言ってます？テストの点とか順位とかですよ。これが認知能力の良さです。分かりやすい。だからこれまでキャリアパスに使ってきました。試験で合格を判定する時に、学力の高さが点数で明確になります。だけど、今それに加えて、点数化できない力の非認知能力が大事だと言われています。人間力、人間性、自分の内面に関わってくるような力のことです。経団連が出しているアンケート結果によると、社会が新卒者に求めている能力として、最近では、課題設定・解決能力が増えましたね。あと、傾聴、発信も書かれています。セットにすると、コミュニケーション力ですね。お伝えしたいのは「社会人になって圧倒的に求められるのは非認知能力」ってことです。

実は、非認知能力はいろんなものがあります。国内では六十、海外では二百ぐらい研究されているらしいです。ただ、全ての非認知

津美中学校
2年 川 侑生
(令和5年度)

「お地藏さん」 (水墨画)

はっ工りに
うかが思淡に
が、うっが濃か
淡るよう墨を
の濃出したな
墨き夫落もな
のりしとよっ
のりしとよっ



能力を覚えてほしいわけではなく、いろんな力を総称して「非認知能力」って言うてるんだと知っておいていただきたいんです。「非認知能力」って言葉を知ると、ついつい「私、非認知能力低いかも」「うちの子、非認知能力高いかも」とか言う人がいます。非認知能力の中の何が低いのか、高いのかっていう方を、是非していただきたいですね。さらに、非認知能力って総称している力は、「心」なんです。昔はこの言葉使ってましたよね。ある有名マンガのキャラクターが、主人公に「心を燃やせ」って言うんですけど、その「心」です。「非認知能力を伸ばしていい」「心」の言い方を変えると「心を燃やせ」

とほぼ同じ意味合いということですね。ただ、今は子どもの数も減ってますから、より確実に非認知能力を育むために、解像度を上げることが必要です。つまり、一言で言っちゃってる「心」なり「非認知能力」を、いくつかに分けて、解像度を上げようっていうことなんです。三つくらいに分けることによつて、自分や我が子の非認知能力は、どれが強くどれが弱いのか、捉えることができてきます。

● 非認知能力はマイナス面もある

三つにグループ分けした非認知能力を改めて紹介すると、一つ目は、自分と向き合う力。忍耐力、回復力など。二つ目は、自分を高める力。意欲、素直性、自信など。三つ目は、他者とつながる力。共感性、強固性、社交性などです。皆さんが今、一番強く発揮しているのはどの能力か、一つ挙げてみてください。共通の役割の方を対象にした研修だと、多くの方が同じ能力を挙げることがあります。自分の立場や役割から意識するのもかもしれませんね。

今、自分が強いと思う能力を挙げていただきましたが、強すぎると良くないことがあります。これは、認知能力と非認知能力の決定的な違いの一つで、認知能力は、高いほどいいんですが、非認知能力は、強く発揮し

すぎると良くないんですよ。例えば、我慢強すぎると、ストレスが溜まりますよね。あと、我慢しすぎる人って、相手からすれば、表情に出ないから、何考えてるかわからんのですよ。次に、やる気や自信があまりすぎると過信、うぬぼれに変わります。三つ目他者と繋がる力。子どもは「みんなと仲良くしようね」って言われているじゃないですか。でも、今皆さん、みんなと仲良くできますか？ みんなと仲良くするには、アンチを徹底的に減らさないとけないんですよ。そのためには極力何もしない、何も言わないようにする必要がありますけど、結構きついですよね。これが、他者と繋がる力のマイナス面です。

● 土台は「自己肯定感」

もう一つ、保護者の方へ伝えたいのが、「自分が自分であっていい」ってこと。明石家さんまさんの言葉を借りると、「生きてるだけで丸儲け」。聞いたことあると思います。「自己肯定感」と言って、自分の存在を肯定できる感覚のことです。これは、本当に、「生きてるだけで丸儲け」なんです、できようができません、いかにいいです。かっこいいかっこ悪い、イケてるイケてない、関係ないです。とにかく、「そこに存在してるあなたでいいよ」ってことです。この自己肯定感、三歳

ぐらいまでにとっても育まれるんですよ。だから、「ちっちゃいうちから、早期教育やろう」なんて、あんまり考えない方がいいです。それより、とにかくしっかり抱っこしてあげてください。そして、声をかけられたら、「どうしたん？」って声をかけてあげてください。早期教育する親の中には、できてる時だけ可愛がって、できてない時は全然可愛がらない人がいます。でも、これをちっちゃい頃から続けると、心が貧しい子どもになってしまいます。自分よりできる人には媚びて、できてない人は、見下すんですよ。あれはその子の問題じゃなくて、元々親がそういう状態を作っちゃったんですよ。氣をつけた方がいいなと思いますね。

早期教育してもいいけど、とにかく太田提は無条件に愛すること、受け入れることです。家て言うって、その自己肯定感が土台になって、その上に柱、筋交いに当たる非認知能力が来ます。その後、壁などの内装、外装がきます。これが認知能力です。内装、外装が組み立てられるためには、絶対的に土台と柱、筋交いが必要じゃないですか。

この土台、柱、筋交いをおろそかにして、内装、外装だけきっちりやかにしても、それははりばてじゃないですか、はつきり言ってます。そのような子育ては、いかななものですか？ という話なんです。ね。(後編続く)